



本学会名誉会員 近藤雅臣先生は  
令和6年1月22日にご逝去されました。  
謹んでご冥福をお祈りいたします。  
日 本 細 菌 学 会

## 故 近藤雅臣 名誉会員 大阪大学名誉教授 御略歴

昭和5年7月20日	大阪府箕面市に生まれる
昭和29年3月	大阪大学医学部薬学科卒業
昭和31年3月	大阪大学大学院薬学研究科修士課程修了 薬学修士
昭和35年3月	大阪大学大学院医学研究科博士課程修了 医学博士
昭和35年4月	大阪大学微生物病研究所助手
昭和38年9月	米国テキサス州立大学 Research Scientist (フルブライト研究員)
昭和40年	テキサス州オースチン市名誉市民 (オースチン市長)
昭和40年10月	大阪大学薬学部助教授・衛生化学
昭和45年～47年	水銀専門学会会議委員 (厚生省)
昭和46年5月	大阪大学薬学部教授・衛生化学
昭和48年～50年	水銀汚染調査検討委員会委員 (環境庁・現環境省)
昭和49年～51年	PCB 汚染環境調査検討会委員 (環境庁)
昭和49年～59年	化学物質審査判定調査委員会委員 (環境庁)
昭和55年～63年	食品衛生調査会委員 (厚生省)
昭和55年～平成2年	化学品審議会委員 (通商産業省)
昭和56年6月～60年5月	大阪大学薬学部長
昭和57年～61年	薬剤師国家試験委員会委員 (厚生省)
昭和57年～61年	日本細菌学会理事・バイオセーフティ委員会委員長
昭和58年	日本細菌学会関西支部総会長
昭和61年～62年	大阪大学総長補佐
昭和61年～63年	日本薬学会理事
昭和62年	瀬戸内海環境保全審議会委員 (内閣総理大臣)
平成元年～3年	中央公害対策審議会専門委員 (内閣総理大臣)
平成元年～4年	日本防菌防黴学会常任理事
平成2年～4年	大阪大学総長補佐
平成2年	優秀研究企画賞 (地球環境産業技術研究機構)
平成3年	水質保全功労者 (国務大臣環境庁長官・現環境大臣)
平成4年～5年	日本薬学会副会頭
	日本薬学会第113年会組織委員長
平成5年～6年	日本防菌防黴学会副会長
平成7年～8年	日本防菌防黴学会会長
平成6年3月	大阪大学定年退官
	大阪大学名誉教授
平成6年	学校法人慈慶学園に参画
	慈慶教育科学研究所所長、名誉所長
	大阪ハイテクノロジー専門学校・大阪保健福祉専門学校 学校長
	学校法人慈慶コミュニケーションアート 理事長
	東京スクールオブミュージック専門学校 学校長
令和6年 1月22日	逝去

## 故 近藤雅臣先生を偲んで

岡山大学名誉教授

篠田 純 男

本学会の名誉会員であり、大阪大学名誉教授の近藤雅臣先生が本年1月22日に逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げます。

近藤先生は御略歴の項に記したように阪大医学部薬学科（現薬学部）を卒業され、大学院を経て微生物病研究所の助手として細菌学の道に入られました。薬学部衛生化学研究室の助教授として戻られ、その後教授に昇進されました。しかし研究面では、芽胞を主とする細菌学研究だけでなく、世間が求めている環境汚染問題に積極的に取組まれ、略歴欄にあるように環境関係の多くの委員会に関与されています。細菌学会では、理事・バイオセーフティ委員会委員長として「日本細菌学会バイオセーフティ指針」の取りまとめに尽力されました。これは、バイオハザード委員会が「日本細菌学会バイオハザード防止指針」の名で当初案を作成していたものを「バイオセーフティ指針」として整備したもので、さらに筆者がバイオセーフティ委員会の委員長を引き継いだ頃はバイオテロ問題への対応が必要になった時期であったので、更に種々の検討を重ね、教育委員会と協力してバイオセーフティ指針等を組込んだ形の「病原体等安全取扱・管理指針」を2008年に出版しました。これはその後も委員会で修正改訂が行われており、2023年改訂版の出版が細菌学会HP上に記載されていますが、近藤委員長の時代のものがベースになっています。

近藤先生は大学院薬学研究科修士課程を、ビタミン B<sub>1</sub> 研究者として著名な川崎近太郎教授の研究室で過ごされましたが、博士課程は阪大微研で大学院医学研究科に入れ、腸炎ビブリオの分離発見者として著名な藤野恒三郎教授の門下で過ごされました。

しかし、実際の研究では病原細菌学ではなく、芽胞の化学的構造に関する研究、すなわち芽胞形成菌の休眠、耐久機構、芽胞形成および発芽機構等を主な研究対象とされ、そこから派生して芽胞の環境適応に進み、さらに当時世間を騒がせていた多くの環境汚染物質の微生物分解、多様な環境汚染・公害対策等へと道を拓けられています。

業績集を拝見すると、細菌芽胞の構造、化学的研究等が多数見られますが、環境問題を含めて極めて多様な分野に渡っているのに驚かされます。

筆者も薬学部で環境衛生化学という研究室を担当していたので、病原細菌学を主体におきながら環境関連の様々な問題にも取り組んできましたが、近藤先生には遠く及びませんでした。

先生は、多様性という面では、研究面だけでなく御略歴にもあるように内閣、厚生省、環境庁、通産省などの政府関係の多くの委員会の委員をされて、多様な面で活躍されてきたことがわかります。御略歴欄に記した以外にも紙面の都合で記すことができなかった政府関係、大阪府、兵庫県、大阪市等の地方自治体、財団等の委員、各種学会役員などをされています。

さらに個人的なパーソナリティでも優れた面を持っておられ、広い分野の人達との交流を積極的にされて、それが学問・研究の面でも役立っていたと言えるでしょう。例えば、千里ロータリークラブの熱心な会員として活動され、会長、さらに 2660 地区のガバナーを務められた後、2010-2012 年の国際ロータリー理事 (RI Director) を務めておられます。国際ロータリー：RI では、世界で 20 名足らずの理事が選出されて RI 会長の下で理事会が構成されていますが、先生はそのような会合にも積極的に参加されていたようです。

そして、阪大を定年退官された後も慈慶学園に参画されて、そのグループの様々な事業に精力的に参加されました。主として医療関係の事業ですが最後に記したように異色なものとして、スクールオブミュージック専門学校校長が書かれていますが、先生は音楽家としても知られています。例えば、先生の阪大退官記念誌にも学会関係者、官庁役員、門下生等からの寄稿文と共に、著名なミュージシャンからの寄稿が掲載されており、先生がピアノ、テナーサックスの優れた演奏家であることが分かります。

先生は、テキサス大学留学時にヒューストンの名誉市民に任じられていますが、このようなミュージシャンとしての交流もそれなりの効果があったのだろう、と憶測しています。

最後は本筋から離れた話題を記してしまいましたが、近藤雅臣先生のご逝去にあたり、先生が教育・研究面での優れた先達であったばかりでなく、多面的な素晴らしい人間性をお持ちであったことを改めて思い起こして、衷心よりご冥福をお祈り申し上げます。